

あゆみ

48号



サビエル高等学校後援会

山口県山陽小野田市掃山三丁目5番1号

サビエル高等学校スクールモットー
For Others, With Others
他者のために、他者とともに

◆ 目次 ◆

サビエル高校の魅力を 発信してください	後援会会長 西村 公一	・・・1
「最後の人」になる	理事長 小濱 富美代	・・・2
聖書の言葉 「右の頬を打たれたら・・・」	校長 松原 秀樹	・・・3
ごあいさつ	同窓会会長 嶋田 千里 (35期卒業生)	・・・4
This is ME	生徒会長 上田 明日華	・・・5
2023年度教職員一覧		・・・6
先生方お元気ですか？		・・・7
サビエル高校とボランティア活動の現在		・・・9
2022年度決算報告		・・・15
サビエル高等学校後援会会則		・・・16
2023年度役員一覧		・・・17
サビエル高等学校と後援会のあゆみ		・・・18

サビエル高校の魅力を発信してください



サビエル後援会 会長 西村 公一

新型コロナウイルスも今年5月8日に第5類に分類されて、日常生活が次第にコロナ前へと戻りつつあります。しかし感染状況はまだまだ楽観視できるものではありません。

サビエル高等学校は昨年開校60周年を迎え、記念行事が盛大に執り行われました。記念式典では本校を支えて下さった沢山の先生方や卒業生の皆さんが旧交を深めておられ、とても素晴らしい機会となりました。

さて、我がサビエル高校も近年の少子化時代の波を受けて、生徒数の減少が顕著となってきました。今年度の入学生は定員105名に対して63名で、大きく定員割れをしています。学校訪問やオープンスクール等を通じて受験生の獲得に努力はしておりますが、残念ながらそれが入学生増につながっていない現実があります。

他校にはないサビエル高校の特長は、キリスト教精神に基づいた宗教教育、ボランティア教育、平和教育を基軸として、学力向上、愛と奉仕、国際交流といった、これからの21世紀を創る心豊かな人材育成にあります。

もちろん、学力の向上についても先生方は努力されており、自ら学び、自ら考える力を持つ生徒の育成を目標としています。進学については約140校の指定校推薦を抱え、全国の国公立、有名私立大学にも沢山の合格者を出しており、進学率は95%を超えています。

また、遠距離で通学のできない生徒に対しては「サビエル寮」を設置しており、ここでの共同生活が豊かな人間性を育む糧となっています。

このような沢山のサビエル高校の魅力がありながら、それらを広く発信する、伝える力が足りないのかもしれないかもしれません。サビエル高校後援会、同窓会、在校生などのネットワークを大いに活用して、一人でも多くの生徒を迎えたいものです。どうぞ皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

「最後の人」になる

理事長 小濱 富美代



今年も、もうすぐクリスマスがやってきます。これほど世界中で愛されるクリスマスですが、その日がイエス・キリストの誕生を祝う日であること、そしてイエス・キリストがどんな方だったかを知る人は多くないかもしれませんね。キリストの死後、使徒となった聖パウロがフィリピ（東マケドニアにあった古代都市）の教会の信徒に宛てた手紙の中で次のように語ります。

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、しもべの身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

（聖パウロのフィリピの信徒への手紙）

イエスは父なる神の愛を伝えるため、十字架の死に至るまで、その使命に従順な方でした。目には見えない神の愛の見えるかたちとなって人間と同じようになり、人間とともに生きた方でした。クリスマスによく愛が語られるのはそのためでしょう。「自分を無にして、しもべの身分になる」という表現は、現代の私たちには少しなじめないものかもしれませんね。「しもべとなる」ということは、奉仕すること、つまり相手に喜んでもらうために働くことです。この生き方こそ、イエスの本質を表しているものです。そして、サビエル高校の「愛と奉仕」の心なのだと思います。

先日、寮生たちに「最後の人になる」という話をしました。それは、日常生活の中でできる小さな愛と奉仕の行いのことです。たとえば、最後に部屋を出る人は窓を閉め、電気を消して出る。炊飯器の最後のご飯をお茶碗につぐ人は、炊飯器のスイッチを切り、お釜を洗っておく。トイレトーパーを使い切った人はトイレトーパーを補充しておく、などです。「最後の人」になるのは、ちょっと面倒なことです。「ついてないな」と感じることもあれば、「何でも私ばかりが・・・」と愚痴ることもあるでしょう。（ある心理学者の話では、夫婦の間で、自分のほうがいつもトイレトーパーの交換をしている、と互いに思い込んでいるそうです。）そう、「最後の人」になるのはちょっと面倒くさいこと、損なこと、不運なことですが、誰かを喜ばせるチャンスをいただいた、と考えたらどうでしょう。きっと、心は軽く、元気になるのではないのでしょうか。

戦争のニュースが絶えないこの世界で、わたしたちが平和のためにできることは何でしょうか。大きなことはできないかもしれません。でも、自分の置かれた場所で、自分を無にして相手のために仕える者となられたイエスの心を生きたことはできます。マザーテレサが言うように、小さなことに大きな愛をこめることはできます。自分の心と周りの人との関わりの中で、愛することを通して、平和をつくることができれば、この世界は確実に一歩平和になったということなのです。

今年も一年間、お祈りとご支援をありがとうございました。新年が明るく、平和なものになり、皆様の上に祝福が多くありますようお祈りいたします。

聖書の言葉「右の頬を打たれたら…」

校長 松原 秀樹



『聖書』バイブルというものを、中学校の時まで知りませんでした。幼稚園は「さゆり幼稚園」だったのですが…。高校に入って、いつ、どの先生から、そして何の授業のときに聞いたのか、すっかり忘れていたのですが、ただ、文言だけははっきり覚えています。それは、「右の頬を打たれたら、左の頬を差し出して、これを打たせよ」という意味の言葉でした。

聞いたときはびっくりしました。それまでは、相手から殴られたら、殴り返すか、相手が強ければ、じっと我慢するか、のいずれかで、もう一方の頬を差し出して打たせるなど、思ってもみなかった事でした。そんなことが書いてある『聖書』という本がある、これはショックでしたが、高校在学中は、『聖書』そのものを見たことはありませんでした。

大学に入り、合唱の授業で、「マタイ受難曲」をすることになり、「マタイ伝」を勉強する必要に迫られました。読み始めると、その初めのほうに、出てきました。忘れていたあの文、「右の頬を…」そのとき、変だなと思いました。私の右の頬を打つには、左ききなら、わけなく打てるでしょうが、右ききなら、どうすれば相手の右の頬を打てばいいのか。

そんな思いを解決することもなく大学を卒業し、数年後、ウィーンで勉強を始めた頃、「マタイ受難曲」を歌う機会があり、この疑問を思い出しました。仲間に話しても明快な答えが無いので、指揮者に聞くと、彼は、とても丁寧に、次のように答えてくれました。

「この中の『目には目を歯には歯を』というのは、報復を認めた表現だ。これは、紀元前 17、8世紀頃の時代に、人間を守るための合理的な制度だった。相手から片目を取られたら、こちらも相手の片目を奪ってよい。左足を砕かれたら、相手の左足を砕いてよい。しかし、それ以上のことをしてはいけない、というのであって、いわば、報復がエスカレートして、相手を殺すことのないように、歯止めとして許していたわけなのだ。そこの所を知らないと、報復をしてもよいとキリスト教は教えているなどと誤解をすることになってしまう。

一方この法律では、自分より貧しい人に対しては、加害者は傷害の金銭的補償をした。その保証は、第一に、横面を殴ったら、一セウ払わねばならない。第二に、平手打ちなら二セウ、そして、第三に、右の頬を打つ、これは、右手の甲で打つのだが、この場合は、四セウ払わねばならない。このように定めてあった。大して痛くない手の甲に高い値がつけられていたのは、その行為の中には、侮辱が込められていると考えられていたからなのだ」

手の甲で頬を打つのは、相手がこちらより、一段高い所に立ち、ゆとりをもって、もてあそんでいるような、軽蔑されたというか、本当に不愉快な気持ちになります。そのような最も侮辱されたような打ち方をされても、報復など考えず、これを許して、左の頬も差し出せ、と『聖書』は教えているのです。

私はこのことを知り、「マタイ伝」の文言が少し理解できたような気がしました。このように、外国の、しかも時代の離れた国のことは、考え方や生活習慣が違ふ、その社会的背景を知らなければ、本当の理解は得られない。つくづくそう思うのです。



ごあいさつ

同窓会会長 嶋田 千里（35期生）

サビエル高校同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

コロナウイルスが5類感染症に指定されて以来、様々な行事やイベントが通常開催されるようになりました。サビエル高校でも今年度からモンゴル生の受け入れが始まったり、短期語学研修が再開されたりと、これまでの交流行事が戻ってきました。夏休みの語学研修先はイギリスで、約20名の生徒が2週間滞在しました。そこで、サビエル高校らしい出来事があったので、ご紹介します。

生徒達が無事に帰国した後、先生から連絡があり、どうやら生徒の一人が香港の空港にパーカーを忘れて来てしまい困っているとのことでした。詳しく聞いてみると、パーカーは空港の遺失物センターにあるものの、日本への郵送はしてくれず、誰かが取りに行かなければいけない、ということでした。そのパーカーは生徒がとても大切にしているパーカーだったそうなのです。その話を聞いた時、私の頭にサビエル高校で同級生だった友人が浮かび、すぐに相談することにしました。この同級生は、普段は香港出身のご主人とカナダに住んでおり、その時はコロナ後初帰省でたまたま日本に滞在していたのです。

相談した日は同級生家族がカナダに帰国する前日というタイミングだったのですが、偶然にもその日に香港からお友達が来日し、一緒に観光をするということでした。このタイミングの良さに驚きつつ事情を話したところ、快く協力してくださり、同級生のお友達が香港の空港でパーカーを受け取って日本に運んでくださいました。お友達からパーカーを受け取った同級生は、日本を出国する直前に空港から生徒宅にパーカーを郵送してくださり、無事本人に届いたようです。

偶然が偶然を呼び、本当に奇跡としか思えないこの出来事を、私は神様の起こした奇跡なのではと思ってしまいました。また、後輩の為ならと、ためらうことなくすぐに協力してくれました同級生にも感謝しますとともに、共に学んだサビエル生に対する絆はもとより、後輩に対する絆も感じる出来事となりました。

サビエル高校の同窓生の中には外国で活躍されている方も多く、またサビエル高校に留学した留学生の輪も世界中に広がっています。「世界のサビエル」と思える学校を誇りに思うとともに、これからも多くのサビエル生、サビエル同窓生が世界ネットワークで繋がっていけるような同窓会であるように努力してまいります。

同窓生の皆様、そして世界中が健康で良い年となりますよう心よりお祈りいたします。

〒756-0080

山口県山陽小野田市掃山三丁目5-1

サビエル高等学校 同窓会

メールアドレス info@xavier.ed.jp

TEL 0836-83-3587

フェイスブック サビエル高校同窓会ページ

<https://www.facebook.com/>

サビエル高校同窓会-190151575055076



This is ME

生徒会長 2年 上田 明日華

When the sharpest words wanna cut me down の
鋭い言葉が私を切り裂こうとしても

I'm gonna send a flood, gonna drown them out
洪水を起こして、溺れさせてやる

I am brave, I am bruised
私は勇敢よ、私は傷つけられた者

I am who I'm meant to be, this is me
これが私のあるべき姿なの、これが私よ

これは「グレイテスト・ショーマン」という映画の主題歌である「This is Me」という曲の一部歌詞です。この曲のように、ありのままの姿を他の人に見せることは、とても勇気がいることです。「嫌われるかもしれない」・「居場所がなくなるかもしれない」、このような不安がたくさん付き纏うからです。しかし、この曲を聞くとどこにでも行けるような気がして、見えないところから支えられているような気持ちになります。私たち生徒会執行部は、この曲のように、学校全体を前に導く存在になりたいと思い、「This is ME」という生徒会スローガンを掲げました。このスローガンのもと、生徒一人ひとりが考えていることや挑戦してみたいことを堂々と表現でき、助けてほしい時に「助けて」と言える学校にしていくことが目標です。



「This is ME」を掲げた日から、生徒会執行部は、スローガンを達成するための学校の雰囲気作りを心掛けています。自由に表現できるような雰囲気のある場にするために、生徒会執行部が率先して挨拶をしたり、授業中に質問したりして、そのような場を作り上げようとしています。

この他にも、生徒会が心がけていることは沢山あります。この心がけが少しずつ広がっていき、生徒の皆が「This is ME」を達成することができたらいいなと思います！これから先、様々な生徒会行事があります。その時に「This is ME」が達成されるように、生徒会は頑張っていこうと思います！

そして、卒業した先輩方がサビエル高校に来てくださった時、「青春が蘇るなあ」、「新しい雰囲気のあるサビエル高校、素敵だなあ」と感じてもらえるよう改善しつつ、伝統ある歴史を受け継いでいこうと思います。

サビエルはこれからもサビエルらしく突き進んでいこうぜ！

2023年度 教職員一覧

(2023年9月1日現在)

職名	担当	氏名	職名	担当	氏名
理事長		小濱 富美代	教諭	英語	梅岡 克典
校長		松原 秀樹	教諭	英語	野口 美奈子
副校長	美術	友廣 洋	非講	英語	加比`刈・アビ`刈
教頭	理	江藤 正和	非講	英語	ｽﾌﾟﾙﾌﾟ・ﾌﾗﾝｸﾞｽ
常講	国語	大曲 多佳子	非講	英語	嶋田 千里
教諭	国語	檜垣 侑揮	非講	英語	ｸﾞｽ・ｲﾘｯｸ
常講	国語	村田 敏晴	養護教諭		伊藤 亜希子
非講	国語	大曲 信介	ｽｰﾙｶﾝﾃﾗｰ		大石 英史
教諭	社会	濱寄 豊	ｽｰﾙｶﾝﾃﾗｰ		岡本 博子
教諭	社会	柏田 直人	事務長		井上 光義
常講	社会	山本 清明	事務		平 園美
非講	宗教	ﾌｸ・ﾉｲﾘ	事務		深田 巧
教諭	数学	川田 康二	事務・寮		勇村 つづり
教諭	数学	酒井 めぐみ	非事務		今井 美和
常講	数学	泉 信太郎	非寮務		田中 由佳
教諭	理	東野 由起子	非寮務		市山 野々花
常講	理	檜垣 毅	非寮務		高須 知世
教諭	保体	錦織 豊	非寮務		島野 加奈子
教諭	保体	中野 聖那	校医		瀬戸 信一朗
非講	音楽	時繁 順美	校医		田中 裕基
非講	家・情	原 真美子	薬剤師		松垣 裕明

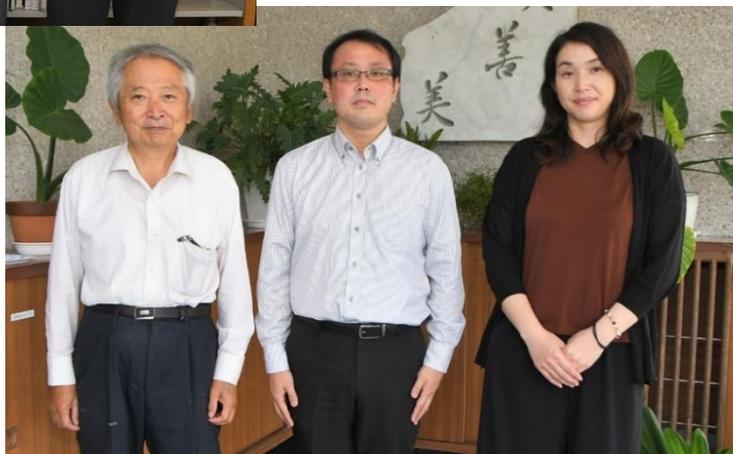
※ 常勤講師：常講

非常勤講師：非講

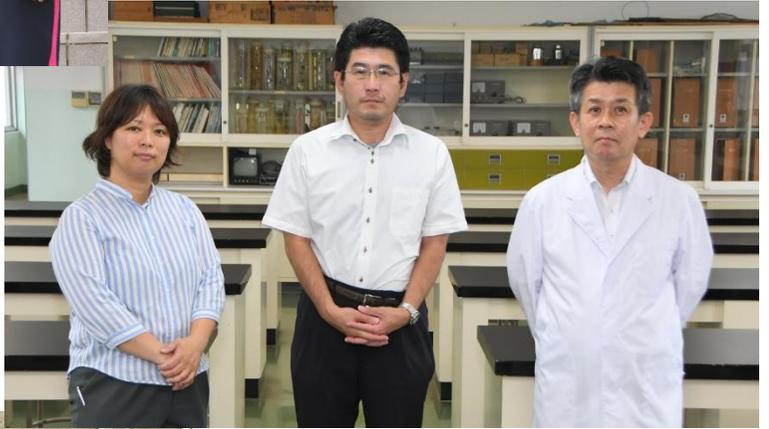
家庭：家

情報：情

先生方お元気ですか？



上から 芸術・家庭
外国語
国語
数学



上から 社会
保体・養護
理事
事務
寮

サビエル高校とボランティア活動の現在

日本における『ボランティア活動』は、1995年の阪神・淡路大震災を契機に全国へと大きく広まりましたが、サビエル高校では今から半世紀以上も前の開校当初からキリスト教精神に基づく『愛と奉仕』の活動に力を入れ、積極的にボランティア活動に取り組んできました。まさに最先端ですね！

その活動は形や方法を変えながら今に至りますが、『歳末助け合い街頭募金』『赤い羽根共同募金』『施設訪問』『献血奉仕』などを懐かしく思い出される方も多いのではないのでしょうか。今号では、サビエル高校の特徴的な教育の柱の一つであるこのボランティア活動の現在を簡単にご紹介いたします。

サビエル高校のボランティア活動は、主に次の4つのグループによって行われています。

- 1 学校行事として行うもの（生徒は全員参加）
- 2 カリタス部の部活動
- 3 インターアクトクラブの部活動
- 4 有志によるもの

以前は外部からの依頼に応える形で、活動内容や手法を決めていましたが、コロナ禍以降、特に高齢者や障がい者施設等からは依頼がなくなるなど、求められる活動内容等も含めて様変わりしてきており、従来どおりの取り組み方では活動そのものが大きく後退してしまうことが懸念されました。ボランティア活動は、人と人との触れ合いを大切にするという性質もあったためか、実際に、生徒たちがボランティア活動をしたくても、する場所、受け入れてくれる場所がなかなか見つからず、活動には至らないという苦しい状況に立たされたこともありました。



現在では、ボランティア活動そのものを生徒たちが自ら見つけ出し、交渉を行うなど、ゼロからスタートして活動にこぎつけるという取組も行っています。これは、「マイプロジェクト」という自分たちの興味関心を具現化するために企画し実行していく学び（探究活動）の中で、ボランティア活動を行うと決めた生徒たちが挑戦していくという形で実現されることが多いようです。コロナ

の完全終息にはまだまだ時間がかかりそうですが、ボランティアの依頼も今年度は復活の兆しが見え始め、嬉しい悲鳴とともに大忙しの一年となりそうです。



1 学校行事として行うものについて

「歳末助け合い街頭募金」は生徒全員が参加します。この活動は、サビエル高校の中でも特に古い歴史があり、山口県共同募金会から毎年表彰も受けています。サビエル高校の募金だとわかるように防寒着を着ずに行いますが、「寒いのに大変ね!」「がんばって!」「私も卒業生です!」などのお声をかけられることも多いので、凍えるような寒さの中、生徒たちも温かい気持ちになり、モチベーションも上がります。サビエル高校では、年間でこの「歳末助け合い街頭募金」以外に、もうひとつボランティア活動を行うように生徒たちに呼びかけています。



ご協力ありがとうございます!



2 カリタス部での取組み

カリタス部といえば、サビエル高校の生徒だった皆さんにはおなじみの部活動ではないでしょうか。「カリタス (CARITAS)」とは、ラテン語で「愛」を意味する言葉です。国際カリタスという世界規模の組織がありますが、日本では、カトリック教会が中心となって、募金活動や救援活動のほか、弱い立場におかれた人々が人間らしい生き方を獲得するための啓発活動を行っている「カリタスジャパン」という組織があり、カリタス部もその活動に倣って、『愛のわざ』を率先して行っています。

活動内容は、顧問の先生と部員との話し合いで決めています。その時々、社会の状況や地域で必要とされているものを優先的に取り上げるという考え方を大切にしています。過去には、釜ヶ崎（大阪）のホームレスの方々へ越冬用の衣服や食料を集めて送付したり、実際に現地に行つての奉仕活動、東日本大震災が起きた時には、東北の物品を仕入れ、販売して得た収益を移動費用に充てて現地へ赴き、奉仕活動を行っていました。近年は、小倉（北九州）の路上生活者支援のための活動に力を入れており、大変な冬場を乗り切るための支援物資を送ったり、今夏、豪雨災害で被災したカトリック系の聖霊女子短期大学付属高等学校（秋田）に支援金を送るため、全校生徒や教職員等に呼びかけて集めた物品を売るなどして復興のお手伝いを行っています。



3 インターアクトクラブでの取組み

インターアクトクラブは、ロータリークラブ(国際的奉仕団体)により提唱された高校生のための社会奉仕クラブで、世界規模で取り組まれています。

サビエル高校では、施設訪問やカレンダーバザー、地域で行われる行事のお手伝いなどを行ってきましたが、コロナ禍や世界情勢による変化にも対応しながら活動に取り組んでいます。ここ近年の活動をご紹介します。



老人ホーム訪問

「フクシア紫苑」を訪問し、車いすの清掃を行いました。

以前に訪問していた「楠園」では、コロナウイルスの影響で活動ができなくなったため、お見舞いの色紙を作成して送りました。



焼野海岸清掃ボランティア

小野田ロータリークラブとともに清掃を行いました。

※山陽小野田市の焼野海岸は「日本の夕日100選」に選ばれています。



ウクライナ支援募金

サビエル祭で例年「献血促進」の展示に取り組んでいますが、昨年度はウクライナを支援するための募金活動を行い、たくさんの寄付を集めました。



カレンダーの送付

コロナ禍以降カレンダーバザーができない状態でしたが、海外では人気のある日本の自然を紹介するカレンダーをサビエル高校と姉妹校の聖母女子高校(韓国釜山市)とレッドクリフステート校(山陽小野田市と姉妹都市であるオーストラリアのモートンベイ市)に送りました。



4 有志による活動



「マイプロジェクト」

保護猫活動の手伝いや子ども食堂の運営団体の手伝い、地域の自治会行事への参加など、様々な活動を生徒自らが見つけて取り組んでいます。この「マイプロジェクト」は、数年前から全国で行われており、特に『NPO法人カタリバ』の活動がよく知られていますが、山口県でも『ひとつづくり財団』の主催で、2020年から「やまぐち若者 MY PROJECT」の活動が始まりました。その流れを汲んでサビエル高校でも、授業での探究活動の一環として取り組んでいます。

「ヤップフレンズ」

山陽小野田市で地域の活性化を目指して始まったボランティア活動です。フリーマーケットの運営と「ヤップ食堂」という1食300円程度で食べられる食堂の運営という大きな二つの活動があります。特に「ヤップ食堂」では、子供に限らず誰でも参加できる交流の場を提供するために行われています。食堂



で食事をした人は用意されたた食品を自由に持って帰ることができ、これは食品ロス対策にも繋がります。

食品は、「フードバンク」と言われる市場に流通できなくなった廃棄予定の食品（賞味期限や見た目を理由としている）の寄付を受けて配給する活動に支えられています。また、家庭で余った食品を集めてフードバンク等に寄付する活動は「フード

ドライブ」と言われおり、個人的に協力されたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。これらの活動には様々な団体が参加していますが、サビエル高校の有志もがんばって協力しています。

「赤い羽根共同募金」

「歳末助け合い街頭募金」だけでなく、秋に行われる「赤い羽根共同募金」にも参加しています。こちらは毎回希望者を募っていますが、『募金はぜひやってみたい』と思う活動なのか、多くの生徒の参加希望があります。



「集まれストリートミュージシャン」

山陽小野田市で、赤い羽根共同募金の啓発を目的として街頭演奏をする活動です。過去に、サビエル高校からの呼びかけがきっかけとなってスタートした活動ですが、近年では、軽音楽部、合唱部、吹奏楽部の有志たちが交互に参加しています。





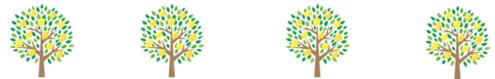
「赤い羽根ラジオ」

FMスマイルウェーブという地元局のラジオ番組に出演し、赤い羽根共同募金の啓発活動を行っています。



「あそぼうキャンプ」

熊本 YMCA によって始まった、震災や豪雨被害で被災して仮設住宅に住んでいる子供たちを対象としたキャンプ活動に参加して、大学生ボランティアのお手伝いをしています。今年度は大学生が不参加だったため、サビエル高校の有志達がリーダーとして大活躍しました。指導者とともに、火起こしから始まり、ピザづくりやそば打ちなどの様々な体験を子供たちと行うなど、ボランティア活動を通してお互いに大きく成長することができました。



ご紹介したものの以外にも、取り組んでいる活動はまだまだまだたくさんありますが、まさにボランティア活動は、実際に参加して、体験し

てみて初めて知ること、わかることがたくさんあります。そして「ありがとう」の言葉や「応援してるよ。がんばってね!」のお声をいただくと本当に嬉しいものです。また、自らが進んで考え、行動に移すことで、人と人との温かい輪が広がっていくこれらの貴重な体験は、サビエル高校の生徒たちに、人のために役立つことの意義や、自分たちの思いを勇気をもって発信し、挑戦していくことの大切さを教えてくれることなのでしょう。これから先、街のどこかでボランティア活動に取り組んでいるサビエル生を見かけたら、どうぞ温かいお声をかけてくださいますようお願いいたします。

2022 年度決算報告

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

◎収入の部	前年度より繰越	3, 526, 054円
	会費・賛助金	948, 200円
	預金利息	5円
	合 計	4, 474, 259円
◎支出の部	会費・賛助金振込手数料	30, 030円
	振込取扱票印字サービス料	12, 220円
	郵便振替口座残高証明書発行料	1, 100円
	普通預金口座残高証明書発行手数料	3, 300円
	封筒他消耗品	43, 817円
	奨学費	253, 200円
	あゆみ47号印刷費	90, 200円
	創立60周年行事関連資料郵送料	1, 680円
	創立60周年記念寄付金	1, 000, 000円
	送金手数料	770円
	合 計	1, 436, 317円
*次年度へ繰越（収入－支出）		3, 037, 942円
《内訳》	郵便振替	2, 838, 397円
	普通預金(山口銀行)	199, 545円
	合 計	3, 037, 942円

上記のとおり相違ありません。

2023年 7月 5日

サビエル高等学校後援会

会 長	西 村 公 一	印
監 事	安 部 良 枝	印
監 事	西 村 道 子	印

同窓会 会計報告

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

◎収入の部	前年度残高	4, 076, 851円
	59期生入会金	243, 000円
	預金利息	34円
	合 計	4, 319, 885円
◎支出の部	残高証明書発行手数料	3, 300円
*次年度へ繰越（収入－支出）		4, 316, 585円

サビエル高等学校後援会 会則

(名 称)

第1条 本会は、サビエル高等学校後援会と称し、事務局を同校に置く。

(目 的)

第2条 本会は、サビエル高等学校の方針に則して物心両面よりこれに協力・後援することを目的とする。

(事 業)

第3条 前条の目的達成のため、次の事業を行う。

1. 同校教育の理解と協力
2. 同校の経営及び施設の維持・改善に対する協力
3. 年一度同校のあゆみ(報告書)を発行

(会 員)

第4条 本会の趣旨に賛同の同校卒業生保護者及びサビエル会員と同校卒業生をもって会員とする。

(会 費)

第5条 会費は、年間一口(1,000円)以上を拠出するものとする。

(役 員)

第6条 本会は、次の役員を置く。

会 長 1名 副会長 2名 評議員 若干名
監 事 2名 会 計 1名 顧 問 若干名

(役員の仕事)

第7条 前条の各役員は、それぞれ次の仕事を持つ。

1. 会長は、本会を代表し、会務を処理し、会議の長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に支障あるときは、その職務を代行する。
3. 評議員並びに会計・監事は、役員会を構成し、会長の諮問にこたえる。
4. 会計は、本会の会計を担当する。
5. 監事は、本会計を監査する。

(役員を選出)

第8条 会長・副会長・評議員及び監事は、総会において会員の中より選出し、会計は会長が任命する。ただし、顧問には、会長職経験者をあてる。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は、2か年とする。ただし、再選を妨げない。

(総 会)

第10条 総会は、毎年一回開催する。

(会計年度)

第11条 会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

付 記

この会則は、昭和49年9月28日より実施する。

2023年度役員一覧
(敬称略)

(※は卒業生)

会 長	西村 公一	
副会長	升本 猛	嶋田 千里※
会 計	野口 美奈子※	
監 事	安部 良枝※	西村 道子※
評議員	厚見 光雄	石部 常登
	原木 雄詩	松本 敏子
	柳屋 幸明	石田 修祥
	中島 裕一	竹本 登
	政倉 結衣※	磯中 唯※
	國吉 玲奈※	池田 穂乃香※
	武原 里菜※	青池 あまね※
	内村 真唯※	越野 裕理※
	岩田 真由子※	原田 茉采※
顧 問	吉屋 ひとみ※	
事務局	今井 美和※	

＜サビエル高等学校と後援会のあゆみ＞

1974(昭和49)年 9月

当時の卒業生保護者の方々により『サビエル高等学校後援会』が設立される。
初代会長 広沢道彦様のご指導の下、会則が整備、活動が開始される。

1975(昭和50)年 6月

「あゆみ」第1号発行

2002(平成14)年10月

創立40周年記念式典及び記念事業内容

- ・男女共学導入に伴い、男子手洗い増築工事 ・学校、寮とも空調完備
- ・コンピュータ教室設置(改造) ・電気容量増設
- ・駐輪場新設及び交通安全改良工事 ・給水改善工事 ・武道場新築工事

2012(平成24)年10月

創立50周年記念式典並びに教育講演会

耐震補強工事予定(本館・サビエル寮・体育館・第一特別教室棟)

「あゆみ」第37号発行

2014(平成26)年1月

理事長 Sr ケア フェルダゲ 入療養のため辞任、新理事長として栗田陽二郎校長兼任
サビエル寮・体育館・第一特別教室棟の耐震補強工事終了

2015(平成27)年3月

本校舎耐震補強工事終了

2016(平成28)年4月

理事長兼任校長栗田陽二郎氏が退任、新理事長として Sr 小濱富美代、新校長として松原秀樹氏が着任

2016(平成28)年8月

サビエル寮のリニューアル工事完成

2017(平成29)年4月

サビエル寮のトイレ・シャワールーム改修工事完成

2017(平成29)年8月

21世紀型教育に向けてのITC 機器・設備導入

2022(令和4)年12月

創立60周年記念式典並びに木村大氏による記念コンサート

2023(令和5)年3月

本校正門～昇降口アスファルト舗装改修工事、体育館トイレ改修工事

2023(令和5)年12月

「あゆみ」第48号発行

1962(昭和37)年4月、山陽小野田(旧小野田)市掃山の丘でサビエル高校は小さな産声を上げました。

それから半世紀、神様と多くの方々に支えられ、卒業生は5,277名を数えるまでになりました。

建学の理念「愛と奉仕の精神」、「他者のために学び、祈り、行動する」は卒業生・在校生を問わず一人ひとりの中で培われ、社会や家庭で実を結び、次の世代へと受け継がれていくことでしょう。

後援会と同窓会の皆様、これからもご支援くださいますようお願い申し上げます。